



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1098

30.03.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン (Michael Kühnen)

第二の革命

第一巻：信仰と闘争

第11回

今日、「協調行動」というものがあるが、これは本質的に似たようなことを試みており、一部のシステム政治家は、これを実際の意思決定権を持つ経済会議のようなものに変えることを夢見ていた（これは確かにコーポラティヴな考えに近いものだが、経験上、民主主義システムではこうしたメカニズムは決して機能しないだろう）。共同再建の呼びかけから、エールハルトの「形成された社会」、シラーの「協調行動」、ブランドの「社会的パートナーシップ」（「内外ともに良き隣人でありたい」）、そして協調行動から生まれた経済議会（企業か）のような経済評議会の計画まで、かつて存在し残酷に破壊されたフォルクゲマインシャフトの記憶は戦後全体を貫いた。

しかし、これらの試みには、理想主義的な背景がなく、したがって、説得力と浸透力がない。(1933年1月30日のフォルクスゲマインシャフトの夜明

けは、どれほどの喜びをもって迎えられたか、そして、基本的な考え方はそれほど悪くなかった哀れなルートヴィヒ・エールハルトと彼の形成した社会には、どれほどの嘲笑が注がれたことか)。

しかし、共同体意識に訴えることが、例えば労働者階級の一部の間で、まだ成功を収めているところもあるが、それは、かつてそうであったように、より多くの自由と正義をもたらすものではなく、搾取と労働者の利益の無視をもたらすものである。自由主義資本主義システムは、労働者の利益を代表することができない。したがって、民主主義者が過去概念を誤って利用していることについて、ドイツの労働者を教育することが、国家社会主義運動の課題であろう。

労働者党としての使命を真剣に受け止めなければならない。知識人が知的生活の分解に敬意を表し、ブルジョアジーが臆病で無力に見ているか、あるいはとっくに夢の世界の渦中に沈んでしまっている現在、労働者階級は基本的にこの国の唯一の健全な層である。われわれが目を向けなければならないのは、単純な労働者、腐敗していない、正直で勤勉なドイツ市民である。国家社会主義運動は、労働者階級の正当な利益と要求に関しては、誰にも負けることを許してはならないし、奴隷制度を別のものに置き換えることだけを望む裏切り者のマルクス主義者にも負けることはできない。

お望みなら、階級闘争とでも呼んでください：**国家社会主義者は、ドイツ労働者運動の伝統に属しており、ブルジョア階級国家の伝統に属しているわけではない！**

社会主義的共同体、ドイツのフォルクスシュタートは、自由資本主義体制と何の共通点もない。しかし、その中でこそ、階級と階層の間の対立が解消され、人民の共同体が発展することができるのである。そのとき、偽善と唯物論は排除され、国民経済も回復するのである。しかし、生産が欲求を満たすために行われるのではなく、生産を継続させるために欲求を人為的に喚起するようなことがあってはならない。欲望や食欲を煽り、欲求を人為的に喚起することは、奔放な物質主義の最良の手段となっている！
人々が地上に戻ってこなければならなくなったとき、それは苦い復讐をす

ることになるだろう！

市民の理想的な同意にもはや頼ることができず、唯物論、つまり人間の最も卑しい本能である羨望、貪欲、虚栄心、利便性に永久に訴えることよってのみ存続する社会は、滅びなければなりません！もちろん、こうしたことは西ドイツだけに当てはまることではなく、原則的には、どの自由資本主義国家にも、腐敗と見境なき盲目、偽善と唯物論の特徴が見られる。この不幸な国家形態の結果が、自然に芽生えた国民感情によっていくらか緩和されるのは、他の国々においてだけであり、それは人為的な退廃に対する有機的な防波堤となる。

惑わされないようにしましょう：

確かに、FRGは近隣諸国よりも国内的には安定しています。民主主義という考え方が、現在と未来の問題に対処できないことが、この国ほど顕著でないとすれば、それは国家社会主義者の国家共同体という考え方の後発的な結果である。しかし、他の国々は、我々ドイツ人よりもうまく魂の保持に成功している。彼らはしばしば肉体的にも、精神的にも、そして霊的にも、より健康である。これは、アメリカへの隷属的な依存と、このシステムの受益者がアメリカの「生き方」に完全に適応しようとする狂信的な欲求のせいである。ドイツは魂を失っている。言語、文化、音楽、習慣、ライフスタイルは、ほとんど完全にアメリカナイズされている。

システムは、「バブルガム」を「クール」に噛み、ポップミュージックを聴きながら長髪にし、「ジョイント」を吸うことを「IN」だと感じる若者を喜ばせている。一方、もう一方の、国民的な若者は、民主党（ナチス-ヤバイ！）によれば、監禁されるべきなのである。

なぜなら、彼らは本当に存在するからだ。このもう一人の、ほとんど知られていない若者たちが。崩壊によってすべての理想と希望が打ち砕かれた古い世代と、戦争と敗戦の悲惨さを本能的に衰退した国家社会主義のせいにした廃墟の世代の後では、どちらも勝者の再教育を受けやすかった；両者とも、あまり考えずに新しい富を享受し、国家という民主主義思想の内なる不実さを感じなかった。今、若い世代が育っている。彼らは、40年ほど前から変わらない敵のプロパガンダが声高に宣言してきたことをもはや

信じず、現代の歴史的眞実を求め、そうすることによって国家社会主義を再発見している。

若者は常に理想主義であり、愛にも憎しみにも正直である！

このように、若者は自由資本主義システムの自然な矛盾でもあるのです！

したがって、ドイツの自由運動は、ドイツの若者の運動であり、私たちの民族の未来である。国家は多数決で導くことはできない。問題が複雑すぎるのです。例えば、一般市民が、有権者としての責任を眞剣に果たすとして（果たす人がどれだけいるのだろうか）、どうやって経済・金融政策の行方を決めることができるだろうか。これは一つの分野に過ぎず、他の問題はもっと単純ではない。また、国家は、多数決で選ばれた人たちによって統治されるべきではない。

私たちは終末の時代に生きており、それは生存の問題である。そのような状況では、国家ではなく、最も有能で、最も優れた者がトップに立つ必要があります。国際法の専門家であるフリッツ・ミュンヒ教授は、このように説明しています：

"政治的言論・表現の自由が基本的権利であるこの国では、あらゆる半端なジャーナリストや文筆家、商業コメディアンやポルノグラフィアー、あらゆるバカや豚、バカや聖人が政治を語っています。"

個人の共同決定は、生活の最も狭い範囲、すなわち地域社会、職場などに関してのみ可能である。ここでは、私たちは民主主義者よりも民主的である。なぜなら、ここで共同責任を負うことは自由の一部であり、したがって社会主義共同体の核となるからである。個人もまた、党の支部を通じて、国民の政治的運命に共感することになります。しかし、行政、経済、政治の分野での具体的な個人の決定は、専門家の手に属する。これが尊重されないと、結果として混乱が生じるか、あるいは4年ごとにピカピカのファサードが塗り替えられる間に、支配が背後の匿名の権力者や集団に渡るか、どちらかになる。国民は統治できない。国民のために統治することしかできない！

"多数派"? 多数派ってなんだ? 多数派はナンセンスだ! 分別は常に少数にしかない。人は票を数えるのではなく、重さを量るべきだ。多数派が勝利し、無知が決定するような国家は、早くも遅くも滅びるに違いない。"- フリードリヒ・V・シラー (Friedrich v. Schiller)

"民主主義とは統計に基づく迷信である!" - ホルヘ・ルイス・ボルヘス

ファイト・マルクス主義

自由主義思想とともに、第二次世界大戦という世界史的対決の勝者となったのがマルクス主義である。マルクス主義も唯物論に基づくが、民主主義とは異なり、その第二の柱は偽善ではなく、暴力である。精神的には、マルクス主義の挑戦の前では、国家社会主義思想の前と同様に無力である民主主義よりも、マルクス主義は確かに真剣に受け止められるべきである。ボンの巨大な情報提供者と警察組織の主人たちは、ある思想に暴力で答えるだけではだめで、より優れた思想をそれに対抗させなければならないことを理解していない。

ドイツ国民には、左翼と右翼、マルクス主義と国家社会主義、強制国家と人民国家の間の選択という、ただ一つの選択肢があるというのが、私の確固たる確信である。このことを国民に啓蒙することが、ドイツの自由運動の課題であり、だからこそ、NSDAPの存在を認めることを要求しているのです。国家社会主義運動がなければ、他の白人国家と同様に、ドイツでも共産主義が蔓延することになる。この国の非常に多くの人々がこのことを感じており、彼らが自問するのは正しい。"共産党は認められているのに、なぜNSDAPは禁止されているのか?"。

その答えは、ゲッペルス博士が「闘争時代」の演説の中で、次のように語っている

:

「ボルシェビズムは確かに民主主義の非嫡出子である。しかし、ヨーロッパ生活の重大な局面では、民主主義の母性的な感情が常に新たに芽生えるのである。そして、両者は再び前線に立ち、権威主義的、民族主義的な国

家理念に対する突き上げにおいてのみ、以前は団結していたが、それは、彼らが最も激しく危険な相手として正しく評価し、認識している。

だからこそ、国家社会主義運動は、ブルジョア的な反共主義を無批判に採用しないのである。われわれのスローガンは不変である：**資本主義でも共産主義でもない！**

革命的な潮流から大物たちの蓄財を守ることは、我々の仕事ではない。相手がどんな仮面をかぶっていても、我々の国民の労働大衆を唯物論的独裁と無節操な搾取から守ることが我々の義務なのだ。このように、庶民の犠牲の上にも、労働と労苦のない収入を得ることができる民主主義の大物において、我々は、奴隷のように労働者を追い詰め、常に新しい、無給の追加シフトを入れる共産主義者の機能家と戦う。しかし、似非革命的なフレーズでドイツ人とドイツ人を対立させるだけのマルクス主義の反対者において、我々は、そもそもマルクス主義を可能にした反社会的な振る舞いをする資本家と戦う。しかし、私たちは常に唯物論に反対している。唯物論は、人間を搾取の対象としてしか見ていない--非人間的な機械の車輪の小さな歯車、魂のない消費ロボット、あるいは労働奴隷の青アリのいずれかである。私たちは、黄金のインターナショナルでも、赤のインターナショナルでもなく、自由でありたいと願っています！

マルクス主義は、私たちにとって2つの意味で重要です。1つは教義的なイデオロギーとして、もう1つは世界人口のかなりの部分が支配されているシステムとして、その中には2つの大きくて強力な国も含まれています：ロシアと中国である。

マルクス主義は、自由主義的な資本主義体制に対抗するプロジェクトであり、その論理的な一貫性において魅力的である。イデオロギー的な硬直性と独断的な特異性によって、歴史の流れを解明し、過去、現在、未来について絶対的に正しい分析を行ったと主張する、膨大で慎重に設計された思想体系である。マルクス主義哲学を詳細に批判するのは無駄なことである。その細部を研究しても、このイデオロギーを理解することはできない--その推論はあまりにも論理的であり、資本主義の矛盾の分析の部分的な

正しさは、われわれもまったく異論がない--が、根本的なところを調査しなければならぬのである。しかし、ここで、マルクスの基本的な前提がすでに間違っていること、したがって、マルクス主義の全体が、思想史の観点から見ると、壮大な誤解であり、無駄な知的努力であり、いわば、 $2 \times 2 = 5$ という基本前提に基づく数学であることが明らかになる！

ここだけでなく唯物論の真の子であることを証明するカール・マルクスの思想の核心文は、**"Being determines consciousness."**である。という意味である：

人間は肉体的にも精神的にも、もっぱらその人生の物質的状况に応じて発達する。宗教、教育、国家、遺伝、人種など、他のすべてのものは、人為的な「上部構造」にすぎない。-は、人工的な「上部構造」にすぎず、プロレタリアートの階級的利益に対する見方を曖昧にする幻想であり、これがプロレタリアートの唯一の関心事である。人間の本質を、カール・マルクスほど見誤ったことはめったにない-彼のユダヤ人としての出自によってのみ説明できる-この基本的な哲学的前提は、それを実現しようとするならば必然的にもたらさなければならない将来の非人間性の核となっているからである。ユダヤ人だけが、人間の本質の上に知性、冷徹な理論を置くことができ、彼だけが、感情世界と世界観の価値と事実を否定し、人間をもっぱら社会変革の過程における道具、化学的要素として構想することができるのである。

マルクス主義は、わが大陸のオクシデンタルで理想主義的な伝統に対する一つの宣戦布告であり、マルクス主義が、自らの論理と予見に反して、人間が常に集団に劣ると考えられてきたアジアと低開発国においてのみ本当に足場を固め、マルクスが実際に期待をかけていた白人世界の大国においては、そうではなかったことは、その特徴です。ここに、マルクス主義に対する我々の運動の最初の、そして決定的な矛盾が明らかにされる。百年以上の歴史の中で、国家社会主義の出現ほど、イデオロギーとしてのマルクス主義を揺るがすものはなかった！

国家社会主義は、唯物論的な人間観に対する生きた証拠であり、強制

力に対する意志の勝利であり、物質に対する精神の勝利である。私たちは知っています：

"意識は存在を決定する！"人間は、遺伝子の範囲内で、自分がなりたいと思うものである。

自営業の農民、事務員、小商工人は、資本主義が彼の経済的存在を破壊するので、プロレタリアートに参加しない。祖国を愛し、自分を世界のプロレタリアートの一部とみなさない労働者は、マルクス主義が自分の階級的地位をどのように定義しようとも、マルクス主義からは失われる。そして、マルクス主義が生産手段の社会化による救済を期待するのに対し、国家社会主義は、人間を社会化し、大衆の精神と想像力を支配する力を手に入れる：**理想が物質に勝利するのである！理想は物質に勝利する！」**：

割合で言えば、ドイツの自由運動は、「労働者階級の前衛」である共産党よりも多くの見習い、労働者、そして失業中のフォルクスゲノセンをその隊列に抱えていることは確かである。この共産党は--やはり自らの論理に反して--感覚的にはドイツの労働者というよりも不満を持つブルジョアに訴えかけている。私たちは労働者運動について語るのではなく、労働者運動である。このことも、私たちを共産主義グループと区別している。

マルクス主義の第二の信条である：

"歴史は階級闘争の歴史である"マルクス主義の理論によれば、資本主義の時代には、生産手段を所有し労働者を搾取する資本家と、生きるために資本家に売らなければならない労働力しか持たないプロレタリアという二つの階級が対峙しています。資本主義の必然的な発展は、より多くの生産的な富が、より少ない資本家とともに蓄積されることをもたらし、中産階級と小規模な自営業者は、資本主義の矛盾と危機を経てプロレタリアートへと沈み、このようにしてますます強くなる。すべての人に影響を与える搾取と抑圧は、共通の階級意識（Being

determines consciousness) を生み出し、システムは最終的に労働者階級によって打倒され、共産主義社会への道を率先する。ごく簡単にまとめると、これがカール・マルクスが当初想定していた展開とほぼ同じである。このどれもが実現しなかったことは、誰もが知っている：

資本主義は、産業革命の悲惨さを考えると、当時、誰もが想像していた以上に巧みで適応力があることが証明された。マルクス主義は、強力で自信に満ちた労働力を持つ高度に発達した工業国ではまったく勝利せず、帝政ロシアや中華民国のような発展途上国で勝利しました。公務員、従業員、小規模な自営業者からなる中産階級は、自由主義・資本主義体制の中で常にその存在が危ぶまれているが、それでも自らをプロレタリアートの一員とみなす必要を感じず（意識が存在を決定する）、したがって危機の時には常に資本主義と共産主義の間の第三の道を模索する。

確かにマルクス主義は、階級闘争、搾取、資本主義の避けられない危機について語るとき、一理あります。しかし、このすべてをプロレタリアートと資本家との間の階級闘争に帰するのは、切り捨てられた、独断的な世界観といえます。社会の現実はもっと複雑である：

自由資本主義体制の人々は、無数のグループ、政党、個人的・団体的利益、階層、階級、職業団体、イデオロギー、意見に分断され、誰もが他の誰に対しても戦っている。共通の階級的利害を持つ統一されたプロレタリアートは存在しない：

熟練工は未熟練工を軽蔑し、名工は自分を他の者より優れていると考え、社員は自分の職場に誇りを持ち、肉体労働者を見下し、自分は会社の屋台骨だと考え、幹部社員は他の賃金労働者より起業家に近いと感じる。

いたるところで、個人の利害が働いているのが見える。存在しないプロレタリアートの名において、その自称前衛である共産党が権力を掌握すれば、これほど素晴らしいことはない。人民は、外界に対しては、自分たちが「労働者階級」であるかのように装わざるを得ないが、実際には、自分たちは、欺瞞に満ちた機能主義者の支配下にある

被抑圧民に過ぎないと感じる。アドルフ・ヒトラーが、国家社会主義が「生産手段ではなく人間を社会化する」ものであると語ったのは、このためである。

人々は、自分たち全員を結びつけるものがあり、自分たちを結びつけるものは、自分たちを分かつものよりも強いのだと確信しなければなりません。彼らは、自分たちを共同体として感じることを学ばなければならず、そうすれば、自分たちも共同体である。社会正義を保証し、すべての人を平等に尊重すること--フォルクスゲノセンは、自分たちの間では平等ではないが、各人がそれぞれの場所で、フォルキッシュ共同体のために最善を尽くすならば、同じ尊重に値する--、そうしてフォルクスゲマインシャフトを再び生じさせることが、国家社会主義の任務である。それは、強制することはできないし、強制してはならないが、以前のように、人民の同志の確信から生じなければならず、自由資本主義の現在の相対的な平穏とは、癒しの睡眠が昏睡状態とは異なるように、異なるものである。この文脈でわれわれにとって重要なマルクス主義の最後の原則は、「国際主義」である。

マルクス主義者は、ある国の抑圧されたプロレタリアは、自国の資本家よりも、他の国の抑圧されたプロレタリアと、より多くの共通点を持つという。予想されるように、マルクス主義は、国家、民族、愛国心という共通の絆の存在を否定しているのである。民族は、共に帰属しようとする意志によってのみ国家となる- しかし、これが存在するならば、国家は他の何ものよりも強力である。



NS KAMPFRUF
KAMPFSPRITZ UND NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN
ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFFBAUORGANISATION

September 1934 Ausgabe 1973 28. April 2017 02.06

Der Kampf geht weiter !

Wahing Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da zu sein in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Mitglieder von Massenmord, Verbrechen, Völkermord und Verbrechen haben nicht angeht, das kann die gesamte Idee unserer hoch geliebten Führer Adolf Hitler zu entschuldigen.

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Täter und Kameraden sondern Schlichter im Kampf um die Erlangung unserer wahren Ziele. Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Größe des hochgeliebten Volkland ist keine noch viel größer als in der Vergangenheit.

Die vornehmliche Aufgabe ist eben Adolf, der Völkermord - gegen alle wissen Täter (V) - zu begreifen. Seine Mittel sind Erziehung, Überführung und Kameradenschaft.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Massenmord, ob im Propagandakrieg bzw. auf einem Schlachtfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hilf Hitler!
Gerdhard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.movingtheancient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の戦場は、まさに情報の埋蔵庫です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the NEW ORDER
Number 176 (197) Founded 1978 April 26, 2017 02.06

The Fight Goes On !

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture dilution, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battles, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hilf Hitler!
Gerdhard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!